



(株)コムネット社長 菊池恩恵
<http://www.comnt.co.jp>

8年ぶりに大阪・池田市の「こいし歯科」を訪ねた。医院は江戸時代にタイムスリップしたような商店街にあるシックモダンな建物。小石剛院長(38)は、曾祖父の代からこの地で内科や歯科を開業している「百年医院」の歯科の三代目である。

診療理念は「予防」を真ん中に据えた「健康支援」。そして健康の入り口である口腔の健康(健口)づくりを通じて地域社会に貢献すること。三代目院長に就任して12年、この間予防・口腔ケア専用の2つの個室を含めユニットを4台から8台に増やしスタッフもドクター3人を含め総勢20人、1日の来院者は100人に迫る。

小石院長の目は常に地域に向かっている。院内での予防歯科クラブや、2歳から自分で作る子ども料理教室「こどもカフェ」、マイナス1歳から始める母親教室の「お子育て教室」をはじめ、市内の保育所と連携して数々の「健口支援」のプロジェクトを展開している。

池田は落語と縁が深く「落語ミュージアム」もあり「落語で街おこし」に燃えている。医院では隔月で待合室の落語会「手水寄

席」を開催し、11月で48回目を数える。院長も「恋歯家歯つ恋」(こいしやはつこい)を名乗り毎回新作の「歯育て子育て嘸」を熱演し喝采をうけている。

「診療所は地域の一部です。地域に笑顔と健康を広げるのが僕たちの役目、それが元気の源ですから〜」。小石院長はそう言って屈託なく笑う。

こいし歯科ではこれまでに17回学会発表を行っている。最近では5月の小児歯科学会でスタッフがメインとなり、医院の実践を元に「早期からの口腔機能の発達支援の試みー食べる実習と調理実習のある母親教室ー」を発表した。「食育士」スタッフの情熱もすばらしい。

彼の夢は医院にPT(理学療法士)やST(言語聴覚士)を雇用し多職種連携で「お口を育てる」医院をつくること。そして「地域全体が団結し、健康でよりよい世の中に向かって進むネットワーク

をつくりたい」と意気込む。小石院長の情熱は着実に地域に広がっている。それは、包括ケア時代に向かう「百年医院」の新たな飛躍の可能性を示している。

落語会もやる
百年医院